

ふうせん君 花盛り

103号

抗酸化工法を
あそび隊
ニュース

北九州のA・Mさんより面白い
情報が・・・今日は、一念発起

し、百均にてスプレー容器(150ml)を購入し、えみな水(パール水で薄めた微濃度を)目に霧吹きを致しました。すると目に滲みるどころか、すっぴりして、えっ!と驚くほどの衝動!?"こんな使用感の目薬は初めてでした。それに何だかよく「見える」のです。最初は、水滴を目の中に落とすのではなく、目洗いするつもりで左右の目に吹き掛け、顔の上半分は水浸しになっていました。慣れてくると、反対の手で目をカッと見開き、ピンポイントでスプレー出来るようになりました。気持ちがいいのと、視界がどんとクリアになってきて嬉しいので、もう何度も何度も顔を水浸しにしてしまいました笑。家族にも「よく見える!」と反応大で、もともと早くすれば良かった...。全く灯台もと暗しであったことが、不甲斐なくなりました。ちなみに、私は「緑内障」予備軍であり、酷い「飛蚊症」でもあります。目の中で飼っている虫達か、今後どう変わってゆくのかわ、楽しみでなりません。報告まで。・・・良く思いつきましたね! (濃度に気を付けて)

抗酸花盛りのニュース102号でも紹介したり、社長のブログでも紹介されている大分県玖珠町のH・Tさんからの報告が来ています。

農業に於ける、えみなの効果のこれまでの途中報告です。

1. すでにハウスで育てている春菊、ミズナ、チンゲンサイ、小松菜の生育が素晴らしく良いのです。さわやかな黄緑で、味も抜群です。

2. ウッドノ「病」にかかったカラピーマンの葉は落ちたのですが、新たな葉が展開し、玉が大きいのです。葉面散布と灌水で流しています。

3. 稲に流し込みと葉面散布をしましたが、籾がやや大きいようです。味は早生のひとめぼれは、抜群に美味しいです。

4. 今年連作障害に苦しんだ、ナスの土壌に散水とえみなの石鹼約1キロを土に混ぜて散布し耕うんしました。後のほうれん草がどうなるか楽しみで

す。農業は足し算でなく引き算だと最近思うようになりました。肥料きめ、余計なものは土に入らずに自然に近い状態で栽培することです。これからが楽しみです。勤めて頂いてありがとうございます。

大分県玖珠町 H・T様
大分県玖珠町 H・T様

続いている報告

野菜の写真は、チンゲンサイ、小松菜、春菊、ミズナですが、過去僕が栽培していた頃とまるで違う・・・というのは実感しています。それは先ず、生育が良いこと。病気や害虫が発生しても広がらないということ。葉色が若竹色で、グリーンが異常に濃くないこと。生で食べてもシウ酸等のえぐみが無くて美味しいこと。生育に不ぞろいが少ないこと。連作障害に悩まなくてもよさそうなこと。稲では、葉面散布と水口からの流し込みをしましたが、晩生のヒノヒカリの粒が大きく、病虫害が少ないこと。



稲穂が黄金色です!



認知症最新ニュース

もう日本だけの問題じゃない! WHOが初めて認知症対策で閣僚会合を開催

世界的な危機に直面

日本は超高齢化社会を迎えようとしているが、もはや高齢化に伴う認知症患者の増加は、世界的な問題に発展しつつある。大幅な認知症患者の増加が懸念されるなか、WHO(世界保健機関)は、各国の相互理解と重要性を深める目的で、初の認知症対策について閣僚会合を開催した。

わが国日本の場合・・・認知症患者は2025年に700万人を突破。65歳以上の5人に1人。認知症高齢者の数は2012年の時点で全国に約462万人と推計。と言ふ事は高齢者(65歳以上)の認知症の数?それでは若年性認知症(64歳以下)の数は?こころが問題で、今! 老々介護よりも老若介護が問題化している。さあ! 抗酸化だ!